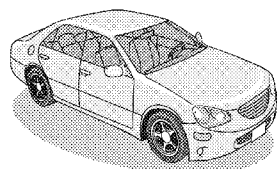


TOKO

未来をつくる東光のテクノロジー

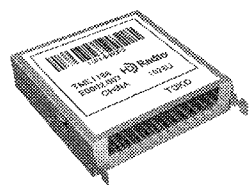


# カーエレクトロニクスの 安全・信頼・快適を力強くサポート

HD Radio®

HD Radio® デコーダモジュール

- HD Radio® の複雑な回路構成を一体化、小型化
- HD1.5 対応：TME1188、HD1.0 対応：TME1192

TME1188 / TME1192  
(33.5×33.5×9.0mm Max.)

PKE/TPMS

LF受信アンテナコイル

- 耐衝撃構造：磁性体と巻線部を樹脂封止
- 高感度、高 Q：磁性材と電極構造の最適化

SA3M08  
(8.0×3.0×3.0mm Max.)

東光株式会社

〒350-2281 埼玉県鶴ヶ島市大字五味ヶ谷18 TEL.049-285-2511 FAX.049-286-7381  
URL <http://www.toko.co.jp/>

## 有力企業の 製品・技術

&lt;順不同&gt;

T D K

TDKは環境配慮型製品の中でも環境負荷低減効果が高い製品を「ECO LOVE」と位置付けている。

同製品群の中でハイブリッド車（HEV）、電気自動車（EV）用として展開しているのが高精度電流センサーの「SAAシリーズ」。HEV/EVの高電圧バッテリーへの充放電電流を監視する製品で、直線性・温度特性に優れており、 $\pm 2.0\%$ までの電流測定が可能。

主な特徴としては①高精度の電流出力監視で高効率のバッテリーシステム構築が可能② $\pm 5\%$ 単電源駆動への対応でセンサーの消費電力を従来品比で64%削減③バッテリー残量を正確に検知、コントロールできるため、HEVの燃費を向上に寄与する、など。

東 光

東光は高効率な電圧変換力を持つパワーデバイス、ワイヤレス社会に欠かせない無線通信を担う高周波デバイスなど、コイル関連製品、電子セラミックス製品といった電子部品や、モジュール製品の技術開発を通じて、社会貢献している。

カーエレクトロニクス分野では安全、信頼、快適性を向上させるオーディオ機器、カーナビゲーションシステム、

化研テック

化研テックは自動車塗装工程の環境・品質・コストを大幅に改善する工程薬剤をはじめ、高品質を要求される電装品のハンダ付けフラックス用洗浄装置「マイクロクリーナー」および洗浄剤「マイクロフリン」など、いち早く脱フロンや鉛フリー化に対応した製品を開発、圧倒的な市場実績を有し、長年自動車のモノづくりにおける現場で環境負荷低減に貢献してきた。

また、新たに市場投入した導電性接着剤「TKペースト」は、従来のような形状の銀粉を製造する独自の技術によって、ナノサイズ粒子ではなくても200、250度で低温焼結する特徴を生かした高導電性・高伝熱タイプなどを完成。今後の自動車のエレクトロニクス化に対応した環境対応型接合材料として、期待されている。

また、部品だけでなく、クルマで普及している地上デジタルラジオ放送「HD Radio」受信用デコーダをはじめとする自動車向け各種モジュール製品の開発も行っている。

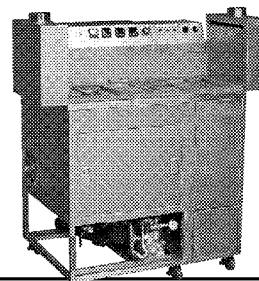
鉛フリーはんだフラックス洗浄システム

マイクロクリーナー-ECO

低VOC

【特長】

- 専用洗浄剤マイクロクリン ECO-3000を水で3倍希釈して使用するため、低VOCで経済的
- 液で洗浄、仕上乾燥できる
- 難洗浄の鉛フリーはんだフラックス、油脂類、水性汚れにも抜群の洗浄力
- 内蔵された蒸留再生器が液を連続浄化し、高品質、廃液レス、低コストを実現
- 装置は極めてコンパクトで移動が容易



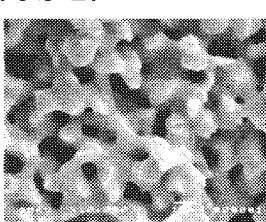
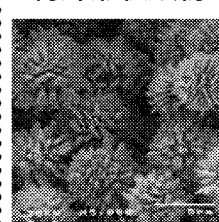
高導電性 接着剤

TKペースト

特殊形状銀粉が高導電性のキー

【特長】

- 銀粉の凸凹の嵌合構造により、プラグとソケットと同様、確実な導電経路を形成。
- 低導電性でも電気を通す特長があり、トータルコストダウンに寄与する。
- 低温（250℃）で焼結し、高熱伝導性を有する。（80W/m-k）



TK銀粉 250℃で焼結



未来材料に挑戦する

化研テック株式会社

本社：〒576-0036 大阪府交野市森北1丁目23-2 TEL.(072)894-2590 FAX.(072)894-2592  
営業所：〒470-0206 愛知県みよし市助生町辰己山31-1 TEL.(0561)32-8712 FAX.(0561)32-8713  
ホームページ：<http://www.kaken-tech.co.jp>

# エコカーを支える 最新技術・製品

## 排ガスのクリーン化や燃費向上

## 電子デバイス制御で

自動車産業界は環境負荷のさらなる低減を実現しなければならぬという大きな課題に直面している。自動車、そして部品メーカー各社ではこれまでも二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）や環境汚染物質の排出量削減、あるいは燃費改善といった環境負荷低減技術の向上に取り組んできた。しかし、より一層進めたエコカーのさらには先をゆく、次世代自動車の開発・普及への取り組みを進めている。EVやHEVはエコカーと呼ばれている。エコカーは地球温暖化防止対策や資源・エネルギー問題などを解決するため、環境負荷低減性能が飛躍的に向上した自動車。エンジンとモーターを併用するハイブリッド自動車（HEV）、モーターを利用する電気自動車（EV）、そして最近の1.6リットル30km/h測定基準10・15モードという低燃費を実現した自然吸気ガソリンエンジンを利用した自動車などがエコカーと呼ばれている。機械、電子、化学など最先端のモノづくり技術の結晶がエコカーだといえる。

## ノイズ対策はますます重要に

## 設計・開発からサポート

最近、EV、HEVに次ぐ第3のエコカーとして話題になっているのが、HEVなみの1.6リットル30km/h測定基準10・15モードの走行を可能にした低燃費の自然吸気ガソリンエンジン。その低燃費実現には車体の軽量化、エンジンの高圧縮比化、エンジン部品の高精度化による内部のフリクションロス低減、燃料噴射の直噴化、自動変速機が多段化や無段階化、さらにはアイドリングストップ機能など、細かい積み重ねが行われている。そこで大きな役割を果たしているのが電子制御ユニット（ECU）である。例えば燃費改善のために燃費改善のシステムで利用されるECUは吸入空気温度や冷却水温度、酸素量などを測定する各種センサーが持つデータに基づいて最適な燃料噴射量を調整したり、バ

より一層の環境負荷低減を実現するため、自動車のエレクトロニクス制御部分が増加した。そのため、ノイズの放出を抑える・ノイズの影響を受けないための技術であるEMC（Electro Magnetic Compatibility）が重要視されている。ノイズの影響で車中の誤動作が起これば、それは安全性にも影響するからだ。

エコカーのみならず、電子化が著しい自動車の安全性を高めるため、電子デバイスメーカーでは



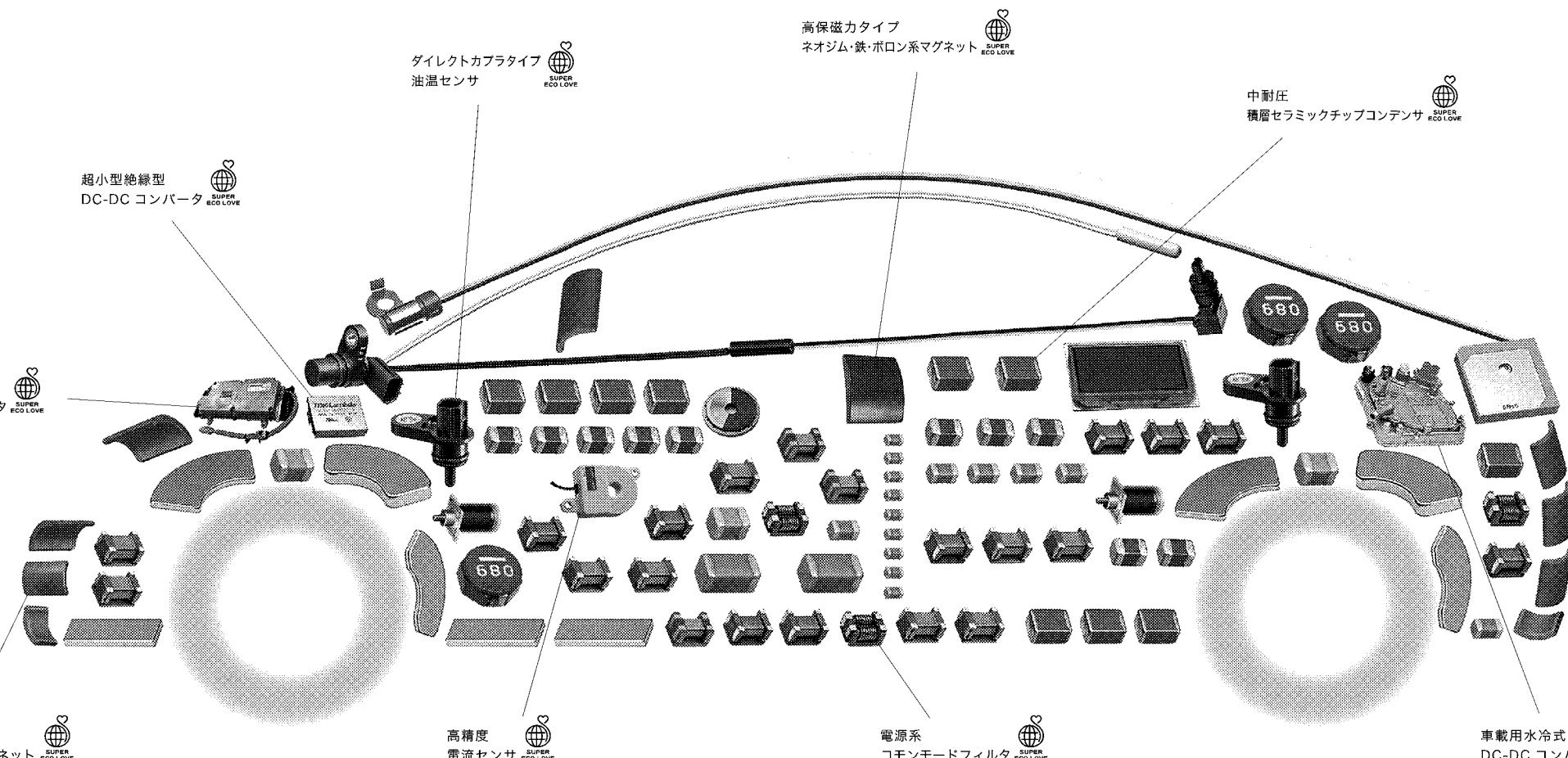
電子機器関連の展示会であるCEATECでもEVを活用する環境ソリューションが注目された（Smart Community「ZERO」）

部に取り付けられたセンサーが各車輪の空気圧や温度を測定し、電波でデータを送信。車内に設置された受信機がモニター画面にデータを映し出すという仕組み。ドライバーはモニター画面によってタイヤの状態を知ることができる。

米国ではタイヤを原因とする事故をなくすために自動車の安全性に関する規制法のTRB法を施行。2007年9月から同国内で販売される全ての車両にTPMSの装着が義務付けられた。欧州でも今年11月から発売される新車への装着が義務付けられている。この状況を背景に日本でも装着義務が検討されている。

タイヤ内の空気圧は安全性のみならず、燃費にも影響を与える。空気圧が低い場合、タイヤ形状は変化する。タイヤ形状が変化する、燃費が悪化する。TPMSでタイヤ内の空気圧を適正なレベルに維持することは安全性の向上のみならず、燃費の改善にも大きな役割を果たすことになる。

あ、T D K のエコが走っている。



ECO LOVE

TDKの環境配慮型製品の中で、環境負荷低減効果が高いものを「ECO LOVE」、またさらに効果が高く業界トップレベルのものを「SUPER ECO LOVE」と名づけました。

需要が急加速しているHV車。ここにもTDKの「ECO LOVE」製品がお役にたっています。素材のグリーン調達をはじめ省資源、省エネ、有害物質の使用禁止、リサイクルなどライフサイクル全般での環境性能を、徹底的に考えました。小さな部品だけど、地球への想いは大きく。TDKは、ひとつ上のエコへ。

小さなエコします。  
大きなエコになります。TDK

TDK

TDK-EPC株式会社  
〒103-0027 東京都中央区日本橋1-13-1<http://www.tdk.co.jp/>